

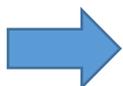
これから取り組んでいくべき人材確保について

(1) 第8期介護保険事業計画策定に伴う調査結果に基づく分析および第2層圏域ごとの課題をふまえた人材確保のための取組みについて

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果に基づく分析		第2層圏域ごとの課題をふまえた人材確保について	
調査結果	分析	①必要な取組み	② ①についての具体的な取組み
地域活動への支援者としての参加意向は、「参加したくない」が62.8%を占めている。 ※参加者としての参加意向より25.8ポイント低い。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動へ参加するにあたって、何かしらの役割を担うことに対してプレッシャーを感じる人が多いことがうかがえる。 ・参加したい人の割合に対して、既に参加している人の割合がかなり低いことから、<u>地域活動の魅力</u>をさらに周知・啓発していく必要がある。 	ボランティア活動が広がる仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に係る経費への支援 ・ボランティアポイント制度などのきっかけづくり
		人材バンク的な仕組みづくり	シルバー人材センター、ボランティア活動センターなど、人材バンク的な機能を有する機関の横断的な取組みや機能強化
地域活動への参加者としての参加意向は、参加したい方が半数以上となっている一方で、「既に参加している」と回答した人が5.8%にとどまっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・有償のボランティア活動（概ね実費程度）の導入など、支援者になるための動機付け（メリット）を検討していく必要がある。 	啓発活動の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動への参加が社会参加であり、最も効果的な介護予防となることについての啓発 ・若い世代の理解者、活動者を増やすための福祉教育の充実 ・保健施策（健康づくりと介護予防）との一体的な推進
		地域活動の魅力づくり	人材不足を福祉の課題ととらえるのではなく、まちづくりの課題ととらえることによる多様で多角的な視点の導入

(2) 第1層協議体における人材確保に向けた考え方について

◎最初から支援者やさらに責任の重い役員を増やしていくことは難しいため、まずは活動を知ってもらい、参加してもらうことを通じて徐々に支援者へ引き入れていくことが必要。



第1層協議体では、人材確保に向けて「**参加者**」を増やしていく方向で協議していく

本日の協議体では、

委員の皆さまが所属する団体で、既に取り組んでいることや今後取組みが必要だと思われることについて協議してください。